

独立行政法人農畜産業振興機構補助事業

四国生乳販連ニュース

四国四県の生産者と連合会をつなぐコミュニケーション紙

第20号

発行日／平成22年10月15日

発行所／四国生乳販売農業協同組合連合会

〒760-0023 香川県高松市寿町1丁目1番12号

編集・発行人／菊川 時彦



新役員体制について（第25回臨時総会）

平成22年9月12日香川県高松市「全日空ホテルクレメント高松」で第25回臨時総会開催し、第1号議案「役員を選任の件」及び第2号議案「退任理事に対する退職慰労金支給並びに慰労積立金の取り崩しの件」について、可決承認されました。

また、引き続き第7回理事会を開催し、第1号議案「代表理事の選任の件」第2号議案「会長、副会長、常務の選任の件」第3号議案「中央酪農会議理事・評議員並びに生乳受託販売委員会委員の選任の件」第4号議案「退任慰労金の支出方法等の件」第5号議案「理事の順位の件」について協議し、決定致しました。役員・生乳受託販売委員会等は、次頁の体制となりましたので、ご報告いたします。

和田前会長 退任挨拶

本日をもちまして退任いたしますが、思い起こせば四国生乳販連設立当初から参加させていただきました。最初の2年間は販売委員として、その後は理事役員をしておりました。この間非常に情勢が厳しく、いろいろと皆様にお知恵をお借りし、多々ご尽力賜りまして、なんとか会長職を果たすことができましたこと、皆様に心よりお礼申し上げます。

新任の役員の皆様方には、益々のご尽力を賜りまして、この四国生乳販連を、生産者団体として更に盛り立てていただきますよう、何卒よろしくお願い致します。



山下新会長 就任挨拶

四国が一本化されて販連機能がますます重要になっています。酪農家の数も減少していくなどの厳しい情勢の中、責任の重さを痛感しております。

販連の一番大きな仕事は、酪農家が生産した生乳を1円でも高く有利販売することにあります。取引先・メーカーを含め、消費が伸び悩んでいる状態にあります。今後の課題は消費をいかに拡大するかにかかっており、乳業メーカーからも協力依頼があります。

今年は猛暑で生産も影響を受けていますが、何とか会員の生乳を有利販売していくために、役員・職員一丸となり努力していく所存ですので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。



1. 役員名簿(22年度)

役 職	氏 名	所属団体
代表理事会長	山 下 信 良	徳島県酪農業協同組合 代表理事組合長
副会長理事	柳 瀬 一 範	全国農業協同組合連合会高知県本部 県本部長
常務理事(常勤)	菊 川 時 彦	—
理 事	宮 武 利 弘	香川県農業協同組合 経営管理委員会会長
理 事	山 田 博 文	愛媛県酪農業協同組合連合会 副会長理事
理 事	藤 丸 清 美	徳島県酪農業協同組合 副組合長理事
理 事	合 田 政 光	香川県農業協同組合 経営管理委員会会長
理 事	田 窪 雅 史	愛媛県酪農業協同組合連合会 常務理事
理 事	土 居 正 明	全国農業協同組合連合会高知県本部 副本部長
代 表 監 事	和 氣 茂 太	愛媛県酪農業協同組合連合会 理事
監 事	原 浅 之	徳島県酪農業協同組合 副組合長理事

2. 退任理事

和田 健(代表理事会長) 宇佐美 忠孝(副会長理事) 庵原 稔(理事)
手塚 孝一(理事)

3. 生乳受託販売委員名簿(22年度)

役 職	氏 名	所属団体
四国生乳販連 会長	山 下 信 良	代表理事会長
四国生乳販連副会長	柳 瀬 一 範	副会長理事
四国生乳販連 理事	合 田 政 光	理事
四国生乳販連 理事	田 窪 雅 史	理事
徳島県の区域	橋 本 勝	徳島県酪農業協同組合 理事
	高 瀬 敏	徳島県酪農業協同組合 理事
	正 木 孝 則	徳島県酪農業協同組合 理事
香川県の区域	秋 山 博 文	香川県農協受託販売推進協議会 議長
	佐々木 英 樹	香川県農協受託販売推進協議会 委員
	赤 松 省 一	香川県農協受託販売推進協議会 委員
愛媛県の区域	山 田 博 文	愛媛県酪農業協同組合連合会 副会長理事
	三津田 健	愛媛県酪農経営者協議会 会長
	永 市 正 明	愛媛県酪農経営者協議会 副会長
高知県の区域	岡 本 泰 明	高知県酪農連合協議会 会長
	宮 本 文 弘	高知県酪農連合協議会 副会長
	山 本 澄 雄	高知県酪農連合協議会 副会長

第10回通常総会を開催

平成22年7月23日香川県高松市「アルファあなびきホール会議室」において第10回通常総会を開催いたしました。和田会長の主催者挨拶の後、ご来賓を代表して、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課・渡辺調整官様、社団法人中央酪農会議・門谷専務様よりご祝辞を頂いたほか、中国四国農政局、各県庁畜産課、全農、全酪連からもご臨席を賜りました。香川県農業協同組合の合田政光経営管理委員が議長として選任され、議案の審議に入りました。

第1号議案「平成21年度事業報告及び剰余金処分案承認の件」（貸借対照表・損益計算書は、以下のとおり）、付帯決議案について、議案原案どおり可決承認されました。

辺調整官様、社団法人中央酪農会議・門谷専務様よりご祝辞を頂いたほか、中国四国農政局、各県庁畜産課、全農、全酪連からもご臨席を賜りました。香川県農業協同組合の合田政光経営管理委員が議長として選任され、議案の審議に入りました。

第1号議案「平成21年度事業報告及び剰余金処分案承認の件」（貸借対照表・損益計算書は、以下のとおり）、付帯決議案について、議案原案どおり可決承認されました。

～貸借対照表～

平成22年3月31日現在

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
I 流動資産	1,609,947	I 流動負債	1,521,709
(預金)	(94,729)	(未払金等)	(1,519,118)
(未収金等)	(1,531,263)	(法人税等)	(1,443)
(貸倒引当金)	(△16,045)	(未払消費税)	(1,148)
II 固定資産	15,271	II 固定負債	4,028
(有形固定資産)	13,897	III 引当金	2,127
(無形固定資産)	1,374	負債の部合計	1,527,864
III 外部出資	3,020	IV 資本	100,374
IV 繰延資産	0	資本の部合計	100,374
資産の部合計	1,628,238	負債及び資本合計	1,628,238

～損益計算書～

平成21年4月1日～平成22年3月31日まで

(単位：千円)

科目	金額
I 事業総利益	53,660
(事業収益)	(15,464,923)
(事業費用)	(15,411,263)
事業総利益	53,660
II 事業管理費	51,086
事業利益	2,574
III 事業外収益	540,146
IV 事業外費用	549,627
経常利益	△6,907
V 特別利益	9,683
VI 特別損失	1,154
税引前当期利益	1,622
法人税等	1,443
当期利益	179
繰越剰余金	195
未処分利益	374

～四国生乳販連ニュース第19号のお詫びと訂正について～

平成22年6月10日号にて、平成21年度平準化単価について、下記のとおり誤りがありましたので、お詫びしここに訂正させていただきます。

	正		誤
月	年間	←	年間
20年度との比較	+8,33		+8,34

※平準化単価については、プレミアム乳代・成分加算金を除く。

21年度乳質改善共励会の結果と22年度の実施内容

日頃より、良質乳の生産にご尽力いただき、ありがとうございます。

平成21年度四国地域乳質改善共励会に係る表彰等について、下記のとおり決定いたしました。

尚、受賞された方々には、賞状・盾・賞金（最優秀賞10万円、優秀賞5万円、優良賞3万円）を各県団体・農協を通して、授与させていただきました。

平成21年度四国地域乳質改善共励会入賞者

最優秀賞

徳島県	上原晴行様			
香川県	大山由仁様	村上芳弘様	横田豊実様	
愛媛県	赤松学様			

優秀賞

徳島県	鈴木康市様	瀬尾武治様	
香川県	上野寿雄様	白川政幸様	
高知県	小松俊一様		

優良賞

徳島県	安芸善人様	大松修二様	加藤修様	川原弘明様
	西條悟様	武知正治様	武知至康様	古川真由美様
香川県	田中陽子様	永崎博之様	増川能成様	三井利広様
愛媛県	岩田忠義様	篠藤敬一様	楠勝馬様	藤井茂喜様
高知県	大野見塩田牧場様	桑鶴牧場様	千頭道広様	宮本文弘様



* 審査方法 *

1. 四国管内で生産され、会員との間で販売委託契約を締結している、年間（4～3月）を通じて生乳を出荷した生産者のバルク乳の、4月1日～3月31日までの12ヶ月間の検査成績により採点。

2. 4月から3月までの生乳検査成績36回（細菌数・体細胞数・脂肪率・無脂肪固形分立と月間乳量）に基づき、配点表による得点により審査

※審査対象外生産者

- ・期間中に不合格（脂肪分3.5%以下、無脂肪固形分8.3%以下）の生乳があった生産者
- ・販売不可能乳の発生についての報告が会員からあった生産者
- ・生乳生産管理チェックシート記帳に係る不備がある旨の報告が会員からあった生産者

3. 規模階層別に①250トン以下 ②250トン～500トン ③500トン以上
毎に規模別の区分を行ない、それぞれ上位10名（計30名）を入賞者とする。
尚、最優秀賞、優秀賞は30名のうち得点上位の10名とする。

なお、22年度も継続して共励会を実施致します。21年度の実施結果を踏まえ、本会の理事会、生乳受託販売委員会で協議した結果、以下の内容で実施する運びとなりました。

平成22年度 四国地域乳質改善共励会の実施内容

1 採点方法

年度（4月～3月）を通じて生乳を出荷した生産者のバルク乳の、4月1日～3月31日までの12ヶ月間の検査成績により採点する。4月から3月までの生乳検査成績36回に基づき、下記の配点表による得点により審査を行う（細菌数は12回分の得点に3を乗じたものを適用）。

2 選抜の方法

規模階層別に、①250トン以下、②250トン～500トン、③500トン以上、毎に規模別の区分を行ない、それぞれ上位5名（計15名）を入賞者とする。なお、最優秀賞はそのうち成績上位者5名、優秀賞はその他の10名とする。

3 審査の対象外となる場合

下記の要件に該当する生産者は審査対象外とする。

- ・期間中に脂肪分3.5%以下、無脂乳固形分8.3%以下の生乳があった生産者。
- ・販売不可能乳、抗生物質の混入による廃棄乳等の発生についての報告が会員からあった生産者。
- ・生乳生産管理チェックシート記帳に係る不備がある旨の報告が会員からあった生産者。

4 褒賞

最優秀賞（5名）：賞金10万円、盾、賞状、優秀賞（10名）：賞金5万円、盾、賞状

5 審査終了予定

5月中に本会理事会で承認を得て、会員団体へ通知する予定。

22年度配点表

項目	基準	得点
細菌数	$n \leq 1$ 万	10
	$1万 < n \leq 3$ 万	8
	$3万 < n \leq 5$ 万	6
	$5万 < n \leq 7$ 万	4
	$7万 < n \leq 9$ 万	2
	$10万 \leq n$	0
体細胞数	$n \leq 100$ 千	10
	$100千 < n \leq 150$ 千	8
	$150千 < n \leq 200$ 千	6
	$200千 < n \leq 250$ 千	4
	$250千 < n \leq 300$ 千	2
	$300千 < n$	0
脂肪率	3.8%以上	4
	3.7%～3.79%	
	3.6%～3.69%	0
	3.59%以下	
無脂乳固形分率	8.80%以上	4
	8.70%～8.79%	
	8.60%～8.69%	
	8.59%以下	0

注) 配点表の21年度からの変更点

- ①衛生的乳質（体細胞数、細菌数）をより重視するため、脂肪率と無脂乳固形分率の配点を減らした。
- ②規模階層区分別の配点を行うため、乳量による配点を廃止した。

平成22年度生乳の安全安心確保対策について

日頃より、良質乳の生産にご尽力いただき、ありがとうございます。

平成22年度におきまして、以下のとおり、安全安心の確保に取り組んでまいりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

1 記帳率100%の実施と質の向上（継続）

- ① 21年度に未記帳であった生産者には、早期に巡回指導を実施する。
- ② 10月末時点での報告で未記帳農家が存在した場合、販連が県連・農協等に対し、当該農家の未実施の原因・理由等を調査し、1月末までには未記帳者をゼロにするように努める。
- ③ また、記帳している場合でも、内容が不十分な場合は、巡回時の対面指導により、記帳の内容・質を高めるように促す。

2 県協議会の開催（継続）

巡回指導の実施以前に、会員団体主催による県協議会を確実に実施する。

3 殺菌・消毒剤使用実態調査の実施（新規）

21年度に社団法人日本酪農乳業協会において実施された管理対象物質に係る定期的検査において、基準値を超過する塩化ジデシルジメチルアンモニウム（DDAC）が検出された。

こうした状況を踏まえ、再発防止を図るため、平成22年度の安全安心の確保の取り組みの一環として、パンフレット（次ページ）配布等により、DDAC等の殺菌・消毒剤の適正使用の周知徹底を行うとともに、生乳生産現場で使用する殺菌・消毒剤の使用実態調査を実施し、この結果を踏まえ、特別検査を実施する。

4 バルク室の衛生管理、施設管理の実態調査、改善指導の検討（新規）

22年度は、生乳の品質管理や外部からの隔離の上で、特に重要な管理点である「生乳処理室」の衛生管理の項目をブロックで新規に集計し、実態を把握した上で、今後の対応を検討する。

5 集乳ドライバー向けの研修会の実施（継続）

生乳集荷業務の心構え、各工程での留意すべき衛生管理ポイント等、県段階での研修会で周知を行い、集乳業務全般の技術的な向上を図るものとする。

併せて、生乳検査結果による会員別平均値とペナルティ対象人数・対象額（平成21年度実績）は以下のとおりとなっております。

	乳成分			体細胞数			細菌数		
	乳脂肪分	無脂乳固形分	ℓ ⁺ パルティ対象額		ℓ ⁺ パルティ対象人数	ℓ ⁺ パルティ対象額		ℓ ⁺ パルティ対象人数	ℓ ⁺ パルティ対象額
徳島	3.95	8.62	4,215	25.15	1,441	33,336	13.81	225	1,742
香川	4.02	8.70	2,449	27.12	1,334	32,214	10.77	129	1,032
愛媛	3.90	8.69	—	28.37	571	32,893	22.83	88	2,022
高知	3.89	8.69	1,695	23.38	681	22,620	15.15	165	2,163
四国	3.94	8.67	8,395	26.01	4,027	12,106	15.64	607	6,959

注) 検査結果の会員別平均値は加重平均による。ℓ⁺パルティ対象人数は延べ人数による。

殺菌消毒剤に関するパンフレット1（重要な事柄ですので、必ずお読み下さい。）

殺菌・消毒剤が生乳に混ざると 数十億円の損害が生じる可能性



『塩化ジデシルジメチルアンモニウム（DDAC）』及び『[モノ、ビス（塩化トリメチルアンモニウムメチレン）]ーアルキル（C9-15）トルエン』を含む殺菌・消毒剤

使用した酪農家の責任

もし、誤使用により、生乳中に成分が混入し、牛乳乳製品の製品回収となった場合は、使用した酪農家の責任で、膨大な損害を被ることになります。

昨年度にも損害が発生

酪農業界では、平成18年にポジティブリスト制度が導入されたことを踏まえ、生乳中への農薬等の基準値を超えた残留がないことを証明するため、毎年度、定期的検査を実施しています。

本来、安全証明をするはずの定期的検査において、平成19年度には1検体より基準値を超えるDDACが検出（ポジティブリスト違反）され、長期に亘る大量の生乳廃棄につながりました。

平成20年度には、殺菌・消毒剤の適正使用に取り組みましたが、平成21年度に、再度1検体より基準値を超えるDDACが検出され、19年度と同様の事態に陥りました。

基準値を超過した理由としては、DDACを含む殺菌・消毒剤の使用実態から①搾乳前の乳房乳頭の清拭に使用していたこと、②搾乳器具の消毒後、十分な水洗いをしていなかったこと、③定められた希釈率を遵守していなかったこと、④濾過布の消毒に使用していたこと、などが考えられ、これらは全て間違った使用方法です。

使用禁止

生乳中へ混入リスクを回避できない

搾乳器具

CASE 1



CASE 2

乳房・乳頭



CASE 3

定められた用途以外のもの（濾過布など）

殺菌消毒剤に関するパンフレット2



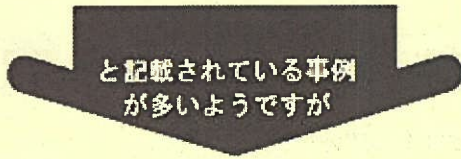
DDAC 等を含む殺菌消毒剤の使用説明書には

乳房・乳頭の消毒（清拭）については

- ① 搾乳前の乳房・乳頭の消毒は、避けること。
または、
- ② 消毒後の乳房・乳頭は、牛乳中に薬剤が混入しないよう搾乳前によく洗浄すること。

搾乳器具の消毒については

- ① 搾乳器具は、消毒後、水で十分に洗浄し、牛乳中に薬剤が混入しないようにすること。



“よく洗浄”または“水で十分に洗浄”とありますが、生乳に薬剤が混入しないようにするためには、どの程度洗浄すればよいのか？明確に記載されていません。どの程度洗浄するのかわからなければ、生乳中に混入する危険性があります。万が一、生乳中に混入した場合は、使用者の責任です。



DDAC 等を含む代表的な殺菌消毒剤の一覧

	商品名	製造販売業者	販売元		商品名	製造販売業者	販売元
1	アストップ	科学飼料研究所	明治製菓	11	パンボックス100	フジタ製菓	
2	アストップ200			12	パンボックス200		
3	クリアキル-100	田村製菓	ベーリンガー-インゲルハイム ベトメデイカジャパン	13	ベストシール	日本全業工業	
4	クリアキル-200			14	モルホナイド10	サンケミファ	コーキン化学
5	クリアキル・ドライ			15	モルホナイド20		
6	クリンエール	共立製菓		16	ロンテクト	科学飼料研究所	
7	クリンエール・200			17	サニスカット	科学飼料研究所	
8	クリンジャーム	大阪製菓	上野製菓	18	パコマ	科学飼料研究所	明治製菓
9	デスマック	ヤシマ産業	ロック化学製品	19	パコマ200		
10	トライキル	田村製菓	明治製菓、ベーリンガー-インゲルハイムベトメデイカジャパン	20	パコマL		

※商品番号1～16は塩化ジデシルジメチルアンモニウムを含む殺菌・消毒剤

※商品番号17～20は、【モノ、ビス(塩化トリメチルアンモニウムメチレン)】-アルキル(C9-15)トルエンを含む殺菌・消毒剤

※【モノ、ビス(塩化トリメチルアンモニウムメチレン)】-アルキル(C9-15)トルエンとは、今まで検査手法が確立されていなかったが、検査が可能となった物質

消費拡大対策 (MILK JAPAN) について

2005年より5年間に渡り、若年層を対象に「牛乳に相談だ。」キャンペーンを展開してまいりましたが、2010年10月より、この活動を一步進め、「牛乳が日本を元気にする。」をスローガンに、『MILK JAPAN』キャンペーンをスタートします



1. MILK JAPANとは？

「MILK JAPAN」は、30代を中心とした母親の「子育て」を、牛乳を通して支援する草の根運動です。

中央酪農会議を中心に過去5年間にわたり、牛乳の飲用促進キャンペーン「牛乳に相談だ。」が実施されました。実飲用層の中高生をターゲットとし、結果キャンペーンへの認知は高い水準を獲得し、牛乳に対する親和性は強まったものの、牛乳の飲用促進は期待したようには改善されませんでした。

そこで新たな取り組みでは、牛乳を通して、日本のお母さんたちの子育てを支援し、家庭内での親子のコミュニケーションや母親同士のコミュニケーションに参加する「運動」としての意味合いから、「MILK JAPAN」と命名されました。

牛乳を通して、子どもが元気に、母親が元気に、地域が、日本全体が元気になっていく。牛乳がそれぞれの過程の生活に根付いていき、その数が連なって大きくなり、日本全体、社会全体を活性化していく。乳業メーカーや食品企業、流通など様々な人や団体を巻き込んで拡がっていく。それが「MILK JAPAN」の最終的なゴールです。

2. キックオフイベントの開催

「MILK JAPAN」の本格的始動にあたり、一般参加型キックオフイベントを、10月10日(日)に全国(東京・仙台・新潟・名古屋・長野・大阪・山口・徳島・北九州)で同時に開催しました。

四国生乳販連では、同日開催される「徳島牛乳まつり」とタイアップして「MILK JAPAN LAND in 徳島」を開催することになりました。

今年で24回目を迎える徳島牛乳まつりは、10月10日徳島市新町川公園で開催されました。すだちと牛乳の混ぜ飲み試飲や阿波尾鶏や阿波ポークと牛乳のコラボレーション料理の試食をはじめ、「牛乳飲みっぷりコンテスト」やバター作り体験、各種乳製品の販売など、盛りだくさんの内容で実施されました。

「MILK JAPAN LAND in 徳島」では、大きな牛のふわふわドームや、牛乳についての青空教室「わくわくモーモー教室」や模擬搾乳体験、スタンプラリー、牛のペーパークラフト、酪農教育ファームの紹介、無料骨密度測定、O×クイズなど、体験型イベント中心に実施しました。

香川・愛媛・高知でも、順次MILK JAPANのPRイベントを、各県のイベントとタイアップして開催する予定にしておりますので、本誌でもご報告させていただきます。

MILK JAPANの具体的な活動内容については、
公式ウェブサイトwww.milkjapan.net をご覧ください。



MILK JAPAN LAND in 徳島 イベント風景



MILK JAPAN LAND in 徳島 入口アーチ



牛のふわふわドーム



移動ステージとキッチンを備え持つ車
「新鮮なっ!とくしま号」



牛についての青空教室
「わくわくモーモー教室」のステージ



ホルスタイン柄の万国旗



MILK JAPAN LANDのPRブース



スタンプラリー参加者に、MILK JAPANのオリジナル絵本とシールをプレゼント。



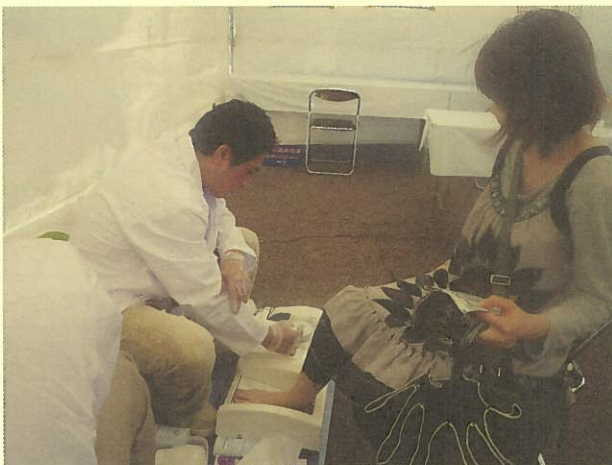
MILK JAPANオリジナルキャラクターのペーパークラフトの制作。



徳島県乳牛改良同志会の皆様のご協力で「わくわくモーモー教室」を開催。



ポリタンクに哺乳瓶の口を付けたもので、模擬搾乳体験をゲーム形式で実施。



無料の骨密度測定会



MILK JAPAN O×クイズ

平成22年度上半期の生乳需給をめぐる情勢

1. 平成22年度上半期累計の受託販売実績（生乳生産動向）

- 北海道では前年比99.4%、都府県では95.9%、全国では97.7%と、北海道・都府県ともに減少。9月は猛暑の影響で、特に減少幅が拡大しています。
- 四国では、全体で前年比97.0%となっています。県別には、徳島96.1%、香川102.3%、愛媛95.3%、高知94.5%で、一部地域でのジャージーからホルスタイン飼養への転換等で増加を示している香川以外は、大きな減少を示しています。
- 受託農家戸数は、512戸と、前年と比べ34戸減少しました。

全国・北海道・都府県と四国の受託販売実績

(単位：ト,%)

	7月	前年比	8月	前年比	9月	前年比	上半期	前年比	9月末 出荷戸数
北海道	331,829	100.3	320,887	98.8	306,175	98.6	1,940,183	99.4	/
都府県	302,242	97.1	286,247	94.6	275,742	92.7	1,820,958	95.9	
全国	634,071	98.7	607,134	96.8	581,916	95.7	3,761,141	97.7	
四国	11,621	99.7	10,941	96.9	10,611	94.2	70,440	97.0	512戸
徳島	3,224	99.3	3,027	97.4	2,880	94.5	19,430	96.1	158戸
香川	2,922	105.3	2,762	103.5	2,706	100.5	17,581	102.3	125戸
愛媛	3,433	96.3	3,225	93.5	3,136	91.5	20,958	95.3	154戸
高知	2,042	98.6	1,927	93.2	1,890	90.3	12,470	94.5	75戸

※四捨五入の関係上、合計値が一致していないことがあります。
 ※四国の実績につきましては、公共分乳量が含まれていません。

2. 牛乳等の消費動向

- 牛乳の消費は低調ではあるが、昨年2月までの90%前後の水準と比較すると、減少幅は縮小している。
- 成分調整牛乳は、21年3月以降に急増したが、1年を経過し、今年度は反動で減少を示している。一方、加工乳・乳飲料は今年度より増加傾向で推移している。牛乳や成分調整牛乳より価格が安いことや、乳製品の在庫圧力による増産等が考えられる。

(単位：キリットル,%)

	飲用牛乳等				乳飲料	はっ酵乳
	計	牛乳	加工乳・成分調整牛乳			
			うち成分調整牛乳			
第1四半期	952,533	779,606	172,927	109,476	306,620	227,725
前年比	98.2	96.5	106.3	94.4	102.6	103.4
7月	324,992	262,108	62,884	40,831	114,286	76,799
前年比	99.7	98.6	104.9	94.2	104.5	98.3
8月	307,963	245,490	62,473	40,633	116,949	71,968
前年比	99.8	99.4	101.6	95.7	101.9	103.1
8月までの累計	1,585,488	1,287,204	298,284	109,940	537,855	376,492
前年比	98.8	97.5	105.0	94.6	102.8	102.2

3. 上半期の用途別販売実績と乳製品の需給動向

- 脱脂粉乳・バターへの製造に向けられる加工向け数量は、生乳生産量が減少していることや、生クリーム・チーズ向け仕向けが伸びていること等から、北海道・都府県ともに減少している。(北海道：89.2%、都府県：96.5%)。
- 四国では、クーラーステーションを活用した本会での配乳調整・飲用化の取り組みにより、平成21年度第3四半期から加工向け数量が減少し、上半期も前年比72.3%と減少した。
- 全国の脱脂粉乳、バターの8月末時点の在庫量は、それぞれ68.2千トン(5.8ヶ月分)、32.5千トン(5.3ヶ月分)となり、適正水準を大きく上回って推移している。

四国の用途別生乳販売の動向

(単位：ト、%)

用途別	7月	前年比	8月	前年比	9月	前年比	上半期	前年比
飲用牛乳向け	9,712	102.0	9,063	99.2	9,110	94.1	57,560	98.3
(うち学校向け)	851	99.6	11	90.7	1,144	93.3	5,724	98.9
醗酵乳等向け	1,321	101.1	1,327	99.1	1,218	91.8	8,159	103.0
特定乳製品向け	456	63.7	417	57.8	155	111.6	3,960	72.3
(うち委託加工向け)	-	-	-	-	-	-	-	-
生クリーム向け	124	119.8	131	142.2	119	119.1	719	119.2
チーズ向け	8	98.7	4	46.5	9	69.3	42	97.3
公共分	12	99.9	9	113.4	8	114.0	73	103.2
総受託乳量	11,633	99.7	10,951	96.9	10,620	94.2	70,513	97.5
平準化単価(円)	106.10	+0.50	105.98	+0.66	106.68	-1.17		

※平準化単価は成分加算金を除いた、各種控除前単価。

全国・北海道・都府県と四国の販売動向の比較

用途別 上半期	飲用+はっ酵乳等向け		特定乳製品製品向け		生クリーム、チーズ等		合計(総受託乳量)	
		前年比		前年比		前年比		前年比
北海道(ホクレン)	422,738	104.1	758,701	89.2	758,744	109.3	1,940,183	99.4
東北生乳販連	251,868	97.6	40,602	92.0	17,062	94.2	309,549	96.6
関東生乳販連	531,750	94.8	54,679	100.8	15,456	101.8	601,885	95.5
北陸酪連	53,292	94.9	1,032	71.2	355	96.9	54,680	94.3
東海酪連	198,604	96.3	7,137	69.0	2,405	89.1	208,147	94.9
近畿生乳販連	98,779	95.8	303	56.7	-	-	99,081	95.6
中国生乳販連	139,209	98.6	4,926	84.7	6,776	99.4	150,911	98.1
四国生乳販連	65,719	98.9	3,960	72.3	761	117.1	70,440	97.0
九州生乳販連	280,481	94.2	30,994	115.7	14,791	87.9	326,266	95.6
都府県計	1,619,701	95.8	143,633	96.5	57,606	95.0	1,820,958	95.9
全国計	2,042,440	97.4	902,334	90.3	816,349	108.1	3,761,141	97.7

※四捨五入の関係上、合計値が一致していないことがあります。
 ※四国の実績につきましては、公共分乳量が含まれていません。



口蹄疫支援互助金のご協力への御礼

宮崎県の口蹄疫被災酪農家に対する支援互助金につきましては集計の結果、下記の通りとなりましたので、ご報告申し上げます。

中央酪農会議を通じ、被災酪農家に寄附させて頂きました。全国からの支援金合計は58,665,189円（内、全国の支援金額38,664,689円及びその経過利息500円、九州販連支援金額20,000,000円）になりました。ご協力を賜り誠にありがとうございました。

九州販連の尾形会長及び宮崎県経済連の羽田会長からお礼の文書が届いておりますので、併せてご紹介いたします。

内 訳	金 額
徳 島 県	855,000円
香 川 県	500,000円
愛 媛 県	785,000円
高 知 県	380,000円
四国生乳販連	30,000円
四国合計	2,550,000円

九州販連 尾形会長からのお礼文書

初秋の候、時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、今般、口蹄疫被災酪農家の経営再建に対し、全国の酪農関係者の皆様より支援金を賜りましたことについて厚く御礼申し上げます。

当会では、8月27日の終息宣言を受け、8月31日に全役員で宮崎県経済連を訪問し、羽田正治会長に支援金を贈呈しました。

今回被災された酪農家のうち、41名ほどの方々が経営を再建されるとのことであり、当支援金につきましては、再建される方々のお役に立てていただきたい旨をお願いしました。

今後、宮崎県では復興に向けた取り組みがなされますが、相当の時間と労苦が伴うのではないかと懸念されます。皆様方からいただきましたご厚情を糧に当会も再建に協力してまいります。

先ずは、今回の口蹄疫支援金に対し重ねて感謝申し上げ、お礼とさせていただきます。

宮崎県経済連 羽田会長からのお礼文書

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度の家畜伝染病「口蹄疫」に際しましては、心温まる義援金を頂き、心から感謝申し上げます。いただきました御ご好意については、畜産農家及び酪農家の生活・農業経営の復旧に活用させていただく所存です。



「口蹄疫」もようやく8月27日に終息宣言を迎えることができましたが、今度は感染ルートの解明や県内畜産業の早期復興をJAグループや行政・関係機関と一丸となり目指していきます。

皆様方には、今後とも牛肉・豚肉をはじめ本県農畜産物の変わらぬご愛顧を賜りますよう、よろしく願いするとともに、全国的な問題として風評被害が広がらないよう、ご協力頂ければと存じます。

本来なら参上し御礼を申し上げるべきところではありますが、取り急ぎ書面をもって御礼を申し上げます。

ありがとうございました。

四国生乳販連・行事だより

開催月日	会 議 名 場 所	協議内容・報告事項
6月15日	平成21年度決算監査 四国生乳販連事務所2階会議室	・平成21年度決算監査
6月16日	第2回理事会 	<ul style="list-style-type: none"> ・22年度乳価 ・21年度事業報告及び剰余金処分案 ・21年度決算監査の結果報告 ・21年度乳価・集送乳経費平準化並びに広域生乳需給調整等の実施に伴う結果報告 ・全国連再委託販売手数料の取り扱い ・21年度乳質改善共励会の結果報告 ・「役員候補者の推挙に係る内規」の制定 ・22年度生乳計画生産の実施状況 ・22年度経営安定対策に係る拠出金単価
	サンポートホール高松5階会議室	
6月16日	四国地域牛乳普及事業 意見交換会	・四国地域における普及事業等
	サンポートホール高松6階会議室	
7月23日	第10回通常総会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度事業報告及び剰余金処分案 ・役員を選任 ・退任理事に対する退職慰労金並びに慰労積立金の取崩 ・付帯決議案
	アルファあなぶきホール6階会議室	
8月3日	役員推薦会議	・役員候補者の件
	サンポートホール高松5階会議室	
8月11日	生乳の安全安心に係る 担当者会議	・平成22年度生乳の安全安心確保の取り組み
	四国生乳販連事務所ビル2階会議室	
8月13日	第24回臨時総会	・役員候補者の件
	サンポートホール高松5階会議室	
8月25日	第5回四国地域酪農教育 ファーム推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・21年度酪農教育ファーム活動報告 ・22年度酪農教育ファーム活動計画
	サンポートホール高松5階会議室	
9月1日	役員推薦会議	・役員候補者の件
	サンポートホール高松5階会議室	
9月12日	第25回臨時総会	<ul style="list-style-type: none"> ・役員を選任 ・退任理事に対する退職慰労金並びに慰労積立金の取崩 ・付帯決議案
	全日空ホテルクレメント高松	

9月12日	第7回理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・代表理事等役員選任 ・退任役員慰労金の支出方法等 ・理事の順位
全日空ホテルクレメント高松		
9月12日	第3回監事会	<ul style="list-style-type: none"> ・代表監事の選任
全日空ホテルクレメント高松		
9月23日	第8回理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度四国の広域生乳需給調整の現状並びに販売乳価の推移、集送乳経費の平準化处理等 ・平成22年度取引乳価 ・平成21年度乳質改善共励会の結果及び22年度の課題・対応 ・平成22年度生乳計画生産の進捗状況と今後の課題・対応 ・平成22年度生乳の安全・安心の確保のための取組み状況 ・加工原料乳生産者経営安定対策事業業務方法書例の一部改訂 ・牛乳消費喚起対策事業（「MILK JAPAN」）の概要
サンポートホール高松 5階会議室		
10月13日	第41回生乳受託販売委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度四国の広域生乳需給調整の現状並びに販売乳価の推移、集送乳経費の平準化处理等 ・平成22年度取引乳価 ・平成22年度生乳計画生産の進捗状況と今後の課題・対応 ・生乳販売業務における乳質の課題と改善策 ・平成21年度乳質改善共励会の結果及び22年度の課題・対応 ・平成22年度生乳の安全・安心の確保のための取組み状況 ・乳製品等の自家製造販売を行う生産者の生乳の取扱い
サンポートホール高松 5階会議室		